

海域の概要

本湖は、北海道東部に存在し、砂嘴で根室湾と隔てられている汽水湖です。数百種類の野鳥が観察され、中でもオオハクチョウの飛来地として有名です。湖内にはホッカイシマエビ・ニシンなどが生息しています。

Specification諸元

湾口幅：0.6 km

面積：5.6 km²

湾内最大水深：1.1 m

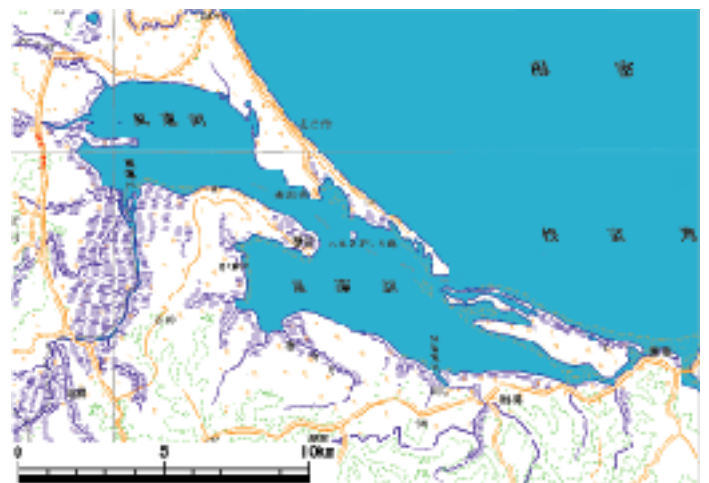
湾口最大水深：1.0 m

閉鎖度指標：1.372

備考：環境基準類型指定水域

Location範囲または位置

北海道根室市及び野付郡別海町。



環境

風蓮湖は湾口を根室湾に開いている海跡湖で、沖合を千島海流（親潮）の分岐流が流れています。湖は、槍昔まで延びる岬によって北と南に分断されているような形をしています。湖岸は泥炭地で、その周囲を標高 40～50m の根室段丘が取りまき、森林地帯を形成しています。

北側の湖にはポンヤウシュベツ川、ケネヤウシュベツ川、風蓮川が流入し、南側には小河川数本が流入するのみです。集水域の土地利用状況は、山林・牧場と市街地です。

根室半島及び沿岸部では、海洋性気候、内陸部では、大陸性気候を示し、年平均気温は、5～6 の冷涼であり、オホーツク海域は、冬期間流水に閉ざされ、厳しい寒気に見舞われます。また、春から夏にかけて海霧におおわれることが多く、霧日数は年間 100 日前後にも達します。

水質は、汽水で、「貧栄養湖」の湖沼型に分類されます。

自然

風蓮湖は、野付風連道立自然公園内あり、その沿岸はアカエゾマツの森林に覆われており、約 300 種の野鳥を観ることができる野鳥の楽園となっています。10 月上旬にはオオハクチョウが飛来し、まさに白鳥の湖となり実に壮観です。その他にも、タンチョウ・オオワシ・オジロワシ・ヒシクイヤモが見られ、植物ではハマナス・スミレが植生しています。これらの観測所として展望休憩所の白鳥台センターなどがあります。

湖には、ハルタモシリ島、ホンモシリ島が浮かび、広大なアマモ場が発達し、干潟も多く形成されています。



飛来する白鳥

文化歴史

「風連」の語源は、「フーレ・ベツ（赤い・川）」の意で、この川が「やち川」・「やち水」で赤かった事が由来と思われます。

1792 年 9 月 24 日、ロシア最初の遣日使節アダム・ラクスマン一行は、帆船エカテリーナ号でオホーツク港を出港し、同年 10 月 20 日に根室に入港しました。冬が近づいていたのでエカテリーナ号を弁天島につけ、8 ヶ月間根室で過ごしました。1931 年 8 月 24 日にはリンドバーグ夫妻がシリウス号で北太平洋を初めて横断し、弁天島の北のはずれとベニケムイ岬に着水しました。



着水したシリウス号

産業

風蓮湖は、根室市と別海町にまたがる海跡湖で、アサリ・シジミの潮干狩りのほかチマ、コマイ、カレイ、ニシンなどが水揚げされています。

根室市の主産業は、漁業の他、水産加工業、石炭及び製紙業などの沿岸部の鉱工業、内陸部における大規模な酪農業及び観光業で構成されています。また、別海町は酪農業が中心となっています。